

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 5 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463378

研究課題名(和文) 卒後看護師へのシミュレーション教育における効果的なファシリテーション技法の開発

研究課題名(英文) Development of effective facilitation technique in the simulation education to clinical nurse back that is a graduate

研究代表者

マルティネス 真喜子 (Martinez, Makiko)

京都橘大学・看護学部・講師

研究者番号：10599319

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は看護師を対象としたシミュレーション教育におけるファシリテータの役割、効果的なファシリテーション技法の開発をめざすことを目的とする。大学教員と臨床看護師のファシリテーション場面を動画撮影し、動画内容の分析により、以下のことが明らかとなった。1) 学習者の学習ニーズを明確に把握すること、2) 学習者への効果的な発問スキルを身につけること、3) シミュレーションでの体験と、日常看護実践の場面を結びつけること、4) 学習目標を学習者と共通認識したうえで、ファシリテーションを進めること5) シミュレーションを体験した学習者の思考過程を明確に図解できるようなファシリテーション・グラフィックを活用すること。

研究成果の概要(英文)：This study aims at the development of facilitation techniques to elucidate the role of facilitator in the simulation education for post-graduate nurses, increase the effectiveness of learning. University faculty members, as a result of the scene of the facilitation of clinical nursing education personnel were content analysis and video shooting, it revealed the following. To clearly understand the learning needs of learners (nurses), To wear an effective Questioning skills to learner, to tie the experience in the simulation and scene of daily nursing practice, To advance the facilitation in terms of the common understanding and learners learning objectives, Taking advantage of the facilitation graphic, such as a learner of the thought process that you experience a simulation can be clearly illustrated.

研究分野：看護学

キーワード：ファシリテーション 看護継続教育 シミュレーション教育

### 1. 研究開始当初の背景

基礎看護教育における臨地実習での看護技術体験の少なさやその習得度の低さに伴い、それを補うために臨床では新人看護職員研修制度が導入された。看護師の看護技術を含む看護実践力の向上は、医療安全、看護サービスの質の保証の観点から、各医療機関において喫緊の課題となっている。このような背景を受け、基礎教育機関及び臨床において、シミュレーション教育が注目され、さまざまな性能のシミュレータを活用した教育が行われている。シミュレーション教育は、確実な看護技術の習得をめざすだけでなく、臨床の場でよく経験する状況を設定し、その状況の変化を的確に判断し、適切な対応ができる状況判断・状況対応力の習得をめざすものである。

本学部では卒業生の多くが臨床看護師として活躍しており、そのような卒業生の看護実践力の向上をサポートするキャリア開発事業の一つとして、2012年度から試行的にシミュレーション教育を開始している。救急蘇生、人工呼吸器装着時の管理などの看護技術、それに加え高性能シミュレータを用いた急変時、手術後、慢性疾患急性増悪時の異常徴候・症状をアセスメントし対応する状況判断力の向上を目的としたプログラムを展開している。受講者の質問紙調査結果では、「病院の研修では質問しにくいことも質問できた」、「経験機会が少ない技術を学ぶことができた」、「リーダー業務を担うようになり自信がなかった技術を学ぶことができた」、「医師の指示を待つだけでなく看護師ができることや医師の指示を予測して行動すること、チームとして各人が担う役割が分かった」など、高い評価を得た。その一方で学習者の「リフレクションの時間が足りなかった」という意見が多く、研修時間と内容について課題が示された。このシミュレーション教育にあたっては、大学教員が自らの臨床及び教育経験に基づき、さらに各プログラムのテーマに沿って学習内容、リフレクションポイントを共有し臨んでいる。しかし、臨床経験を積んだ卒業生に対する教育は、いわゆる成人学習者を対象とする教育であり、学習者の臨床における看護経験もさまざまで、その学びも基礎教育と比べ多種多様に表現される。教員にとってこのような体験をすることは、教員の教育力の向上に役立つものである一方、卒後看護師への教育においては戸惑いが自信不足を喚起させる要因になることも危惧される。シミュレーション教育においてファシリテータが重要な役割を担うとされ、その養成も開始されている。ファシリテータが重要とされるのは、学習者の学びを引き出すことを支援し、学習者自らの気づきによる学習の内面化を促進するためと考えられる。

臨床看護師の臨床実践力や状況判断力を融合させたファシリテータの役割と、効果的学習のためのファシリテーション技法の開発

を目的として本研究に取り組む。

### 2. 研究の目的

上記に述べた本学部のシミュレーション教育の取り組みをもとに、本研究では、基礎教育機関の教員と臨床実習指導者(臨床看護師)が連携・共同して、卒後看護師を対象としたシミュレーション教育におけるファシリテータの役割を解明する。さらに学習の効果を高めるためのファシリテーション技法の開発をめざす。研究期間には以下のことを明らかにする。

(1) 状況設定下のシミュレーション教育プログラムでファシリテータを体験し、学習者とファシリテータの関係からの自身の行動とその効果

(2) ファシリテータとしての基礎教育機関の教員と臨床実習指導者の資質の特徴

(3) (1)、(2)の結果をもとに、シミュレーション教育におけるファシリテータの役割

(4) シミュレーション教育における効果的学習のためのファシリテーション技法の開発と評価

### 3. 研究の方法

(1) 看護技術及び状況設定下シミュレーション教育プログラムを作成・実施し、ファシリテータを体験する。

(2) ファシリテータ自身の反省的考察と動画分析により学習者とファシリテータのやり取りなどから自らの行動とその効果を解明する。

(3) ファシリテータとしての教育機関の教員と臨床実習指導者の資質の特徴を抽出する。

(4) 再度シミュレーション教育でファシリテータを体験し効果的学習のためのファシリテーション技法を評価する。

### 4. 研究成果

臨床看護師対象のシミュレーションプログラムは、2013年に3回、2014年に3回の計6回開催した。

研修テーマは、1回目「循環器のフィジカルアセスメント」2回目「呼吸器のフィジカルアセスメント」3回目「人工呼吸器・口腔ケア」であった。

ファシリテータ参加者は、大学教員12名、臨床看護師7名であった。

ファシリテーション場面は計16場面、スタッフデブリーフィング場面は計6場面録画した。

これらの動画の中で、画質、音声とともに安定しており、ファシリテーションの構造がわかりやすい動画を選択し、動画分析を行った。

(1) スタッフデブリーフィングでの語りから 大学教員と臨床看護師のシミュレーション

オン研修におけるファシリテーションのスタンスの違い

シミュレーション研修においてファシリテータ役を担った、大学教員と臨床看護師の双方が、研修各回の後、スタッフデブリーフィングで語った振り返り内容を分析した。その結果、臨床看護師がファシリテーションを行う際、大事にしたいことは、「細かいテクニカルスキルの指導を行いたい」「自己のスキルのどこがよくて、どこが悪いのか明確にして臨床に戻ってほしい」「漠然とした振り返りではなく、具体的な技術の振り返りがしたい」であった。一方、大学教員は、「ゆっくりと確実に練習してもらいたい」「技術の習得に至らなくても、何か学べたということが大事」「学びを得られるよう、方向性を調整する」であった。このことから、ファシリテータの背景によって、受講者に求めるものやファシリテーションのスタンスが異なってくる可能性が示唆された。シミュレーション研修プログラムのねらい、目的、目標を明確にし、ファシリテータの方針の一致に留意する必要がある。また、臨床看護師、大学教員双方の共通した要素として、「学びを引き出すのは難しい」「出たところ勝負に対応できる柔軟性が必要」「受講生の反応をキャッチする」があった。これは、双方がファシリテーションに慣れていないことをあらわす。臨床看護師は、1次救命などの講習におけるインストラクターの経験を持っていた。したがって、インストラクトすることには慣れていたが、受講者の学びを引き出すことや、グループダイナミクスを生かしてファシリテートすることには慣れていなかった。本シミュレーション研修での受講者の学習ニーズが見えにくく、反応をキャッチする難しさを感じたと考える。一方、大学教員も、普段、学生を対象に教育に携わるが、改めて学生ではない臨床看護師の学習ニーズを捉えながら、柔軟にファシリテートすることには慣れていなかったと考える。このことから、大学教員、臨床看護師双方が、看護教育におけるファシリテーションについて学んでいける場を作る必要性がある。

## (2) ファシリテーションの実態

看護師対象のシミュレーション研修において、臨床看護師2名と、大学教員2名が行ったファシリテーションの動画をそれぞれ比較しながら、ファシリテーションの実際を分析した。グループ間でファシリテーション内容に差が出ないように、ファシリテータには事前に、研修の学習目標、ファシリテーションポイントについて資料を配布した。

動画分析の結果、以下の点が明らかになった。

各ファシリテータは、デブリーフィングガイドをもとに、学習目標に向けてデブリーフィングのプロセスを進めていた。このことから、各グループで学習目標の到達に大きな差

が出ることはなかった。受講者の背景(所属病院、臨床経験年数、配属部署等)にばらつきがあったため、各グループの振り返りの深さや進行には違いがあったが、おおよその学習目標に向けてファシリテーションできていた。しかし、受講者の背景のばらつきは、学習ニーズのばらつきをも意味する。プログラムとしての学習目標が必ずしも学習者にとってフィットしたのではなくる可能性がある。グループ内で、学習ニーズが同じようなメンバーをグループにするなどの調整を行う。これにより、ファシリテーションの方向性が曖昧になりにくくなる。

ファシリテータは受講者の学習状況に応じて、ヒント等の発問を投げかけ、発言を引き出していた。

ファシリテーションにおける効果的な発問は、学習者の学びを促進する。ファシリテータは、グループメンバーの学習目標達成に向けてのプロセスに関与し、全員の発言が引き出されるよう、気を配る必要がある。事前にすべてのファシリテータに配布したデブリーフィングガイドに学習目標に到達するうえでの発問は提示したが、グループメンバーのシミュレーション中の様子、デブリーフィングでの発言の様子から、個人のリフレクションのきっかけになる発問、グループメンバーの学びの深度に応じた適切な発問を投げかける必要がある。発問のタイミング、答えやすい環境づくり、学習者のやり取りを主体的に、また活発にする発問の方法については、今後も分析していくことが課題である。

シミュレーション中の行動や思考の想起、また日常看護実践の想起を促し、振り返りの機会を提供することができていた。

シミュレーション研修での自己の思考の明確化や体験が、シミュレーション内だけで終わることがないように、デブリーフィングの中で日常看護実践の振り返りを促すやり取りが行われていた。ファシリテータが適切なタイミングで日常看護実践に関する問いかけを行うことで、グループメンバー間で日常行っている看護実践の場面を共有し、シミュレーションでの体験を通して、過去の自身の経験を振り返り、あの時どうしていけばよかったか、また、今後どうしていくことが望ましいかを考える場を提供することができていた。

学習目標が受講者との間で十分に共通認識されていなかった。

ファシリテータは研修の学習目標到達に向けてファシリテートするが、シミュレーション研修の受講者の学習ニーズは様々であり、両者間で学習目標が共通認識されていない様子であった。ファシリテータは、随時、グループメンバーと目指すべき地点の確認を行う必要がある。

しかし、各グループメンバーの構成により、目指すべき地点が変更されることもある。必ずしも事前に設定された研修の学習目標に

到達しなければならないわけではなく、受講者の学習ニーズが満たされるよう、ファシリテータの舵取りが必要となる。ファシリテータの一方的な進行では、受講者の主体的な学びの機会を奪う。ファシリテータは受講者がどのような学習ニーズを持っているのか、どのような学びを得たいと考えているのかをしっかりと聞き、受け止めることから始める必要がある。

ファシリテーション・グラフィックをはじめ、効果的なファシリテーションのための十分な準備の必要性があった。動画分析した各グループにおいて、デブリーフィングの発言をホワイトボードに板書し、グループメンバーの思考を可視化する作業を行っていた。シミュレーションで実施した行動レベルから、なぜそうしたのかという根拠にいたるまで、主に箇条書きで板書されていた。板書の方法に決まったルールはなく、ファシリテータのその場の思いつきで書き表されていた。受講者は、この板書をもとに、自分の思考プロセスやグループメンバーの思考プロセスを確認する。この点について課題となるのは、思考を図解するという作業はある程度訓練を要する、ということである。分析対象となったファシリテータ全員がグループメンバーの発言を効果的に図解し、まとめていく作業に長けているわけではなかった。シミュレーション後のデブリーフィングで、まだ十分に思考が整理できていない受講者に対し、わかりやすい板書が必要である。ファシリテーションには、様々なテーマに関する図解のフレームワーク等の知識が必要であると考え、二つ目に、板書しているのはファシリテータであり、ファシリテータが板書によって自分の思考を整理する作業をしてしまっている可能性があるということである。グループメンバーの思考を的確に図解できているとは言い難い。板書という作業に受講者が加わることも、今後検討していく。例えば、まずはグループメンバーの発言内容を受講者の1人が箇条書きのかたちで板書し、ほかの受講者が枠でくくる、線でつなぐ等の図解作業を行い、ファシリテータがこれを用いてまとめる、という方法も考えられる。このように、ファシリテーション・グラフィック一つにとっても、ファシリテータは事前に十分な準備が必要であったと考え、今後の課題とする。

これらの研究結果から、看護教育場面において、教育担当者はファシリテーション技法に関して十分な知識、実践経験を持ち得ておらず、今後発展させていく必要性が明らかとなった。

臨床看護師を対象としたシミュレーション教育において、必要となるファシリテーション技法として、

1) 学習者(看護職者)の学習ニーズを明確に把握すること。

- 2) 学習者への効果的な発問スキルを身につけること。
- 3) シミュレーションでの体験と、日常看護実践の場面を結びつけること。
- 4) 学習目標を学習者と共通認識したうえで、ファシリテーションを進めること。
- 5) シミュレーションを体験した学習者の思考過程を明確に図解できるようなファシリテーション・グラフィックを活用すること。

看護職者が主体的に学習していく力を身につけ、自己の学習ニーズを満たしていくために、臨床看護教育担当者と看護系大学の教員が協働し、学びの場の提供・学びを促進する者(ファシリテータ)の養成を行っていくことが改めて確認できたものと考え、

## 5. 主な発表論文等

[学会発表](計 4件)

マルティネス真喜子、阿部祝子、穴吹浩子、平井亮、久松志保、前原澄子、「看護師対象のシミュレーション教育におけるファシリテーションの実態」/第25回日本医学看護学会学術集会 島根県立大学出雲キャンパス(島根県出雲市) 2015年3月14日

阿部祝子、穴吹浩子、マルティネス真喜子、久松志保、平井亮、前原澄子、「看護シミュレーション教育におけるファシリテーションの課題」/第34回日本看護科学学会学術集会 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市) 2014年11月29日

マルティネス真喜子、阿部祝子、穴吹浩子、平井亮、前原澄子、久松志保、「シミュレーション教育における臨床看護師と大学教員のファシリテーションの特徴」/第2回日本シミュレーション医療教育学会、宮崎大学(宮崎県宮崎市) 2014年6月28日

阿部祝子、穴吹浩子、マルティネス真喜子、久松志保、平井亮、前原澄子、「卒業生を対象とした看護実践力の向上をめざすシミュレーション教育」/第33回日本看護科学学会学術集会、大阪国際会議場(大阪府大阪市) 2013年12月6日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

マルティネス 真喜子(MARTINEZ, Makiko)  
京都橘大学・看護学部・専任講師  
研究者番号: 10599319

### (2) 研究分担者

穴吹 浩子(ANABUKI, Hiroko)  
京都橘大学・看護教育研究センター・客員研究員  
研究者番号: 40582870

阿部 祝子 (ABE, Shuko)  
京都橘大学・看護学部・准教授  
研究者番号：40575693

前原 澄子 (MAEHARA, Sumiko)  
京都橘大学・総合研究センター・名誉教授  
研究者番号：80009612

平井 亮 (HIRAI, Ryo)  
京都橘大学・看護学部・助手  
研究者番号：70708502

久松 志保 (HISAMATU, Shiho)  
滋賀医科大学・医学部 看護師  
研究者番号：10730335